美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要
2003, Vol. 48, 16～26

論　文

タイ語の否定表現に添えられる完了辞の意味

The meaning of the perfect maker with the negation maker in Thai

桐　生　和　幸

1　はじめに

英語では「完了」に対応する「未完了」は、「完了」を表す文を否定文にすることで得られる。

(1) a. John has done his homework.

b. John has not done his homework.

しかし、(1) に対応する日本語を考えた場合、英語のように「完了」を表す表現を否定文にしても、「未完了」を表す意味の文にはならない。

(2) a. ジョンは、宿題をした。

b. ジョンは、宿題をしなかった。(過去の否定)

c. ジョンは、宿題をしていない。(未完了)

日本語の「タ」は、完了と過去の両方を肯定文で表すことができる。しかし、それぞれの否定文は、(2) で示すように形が異なる。(2b) は、過去の事実の否定であり、未完了を表すのは、(2c) の方である。

英語とは異なり、日本語のように完了と未完了が異なる表現で表される言語が他にもある。タイ語は、日本語と同じパターンを示す言語である。タイ語の場合も、(3) のように未完了の表現は否定辞を完了の表現に付けただけのものにはならない。

(3) a. *kin léɛw*
eat PFCT
食べた。(I have eaten.)

b. *yaŋ mâydây kin*
yet NEG eat
まだ食べていない。(I haven't eaten yet.)

単純な図式では、完了を表すには動詞に *léɛw* を付け、未完了を表すには *yaŋ mâydây* を付けるということになる。

実のところ、(3a) の肯定文に否定辞 *mây* をつけた表現も可能である。しかし、英語の完了形と表面的には同じになっても英語とは異なるアスペクト的意味を表す。例えば、次の例を見ると、*mây～ léɛw* は、未完了ではなく、依然として完了を表していると言える。

(4) *ŋən mây mii léɛw*
money NEG exist PFCT
(もう) お金がなくなった。

つまり、この文が表している意味は、「お金がない」という否定的な状態が成立したことを表している。この例から分かることは、英語の完了形と異なり、*léɛw* が否定の *mây* のスコープの外にあるということが言える。

これまでの先行研究では、*léɛw* 自体の意味を詳しく扱ったものはあるが、筆者の知る限り、否定辞 *mây* を含んだ場合の *léɛw* の意味ついては、Howard (2000) が "negative attained state" という言い方で、*léɛw* の表す意味の一つとして簡単に触れているものの、詳細に論じているものはないようである。そこで、本論文では、*mây～ léɛw* という表現の用法について日本語と簡単に対比しながら論じる。第2節では、*léɛw* の意味を先行研究にもとづいてまとめ、*léɛw* がパーフェクトを表す働きが基本であるという立場をとる。そして、第3節では、*mây* による否定文に *léɛw* が付け加えられた場合の意味を日本語で対応する表現と比較しながらまとめる。また、第4節では、*mây～ léɛw* という表現がもつ制約についてまとめる。

2 léɛw の意味

léɛw は、本来は「終了する」という意味の動詞であるが、複合語や慣用表現を除いては、現在は本動詞としては使われず、文法化された機能語的な働きしかしない[1]。良く挙げられる例は、完了を表す *léɛw* である。しかし、単純にアスペクトを表すマーカーとしての働きがあるのみではなく、文中のさまざまな位置に現れて、それぞれ異なった意味を表す。*léɛw* の現れる位置は、(1) 文の先頭、(2) 動詞句の直後が可能であり、次のように意味をまとめることが出来る (Scovel, 1970)。

(5) a. *léɛw kháw kin khâaw*
CONJ 3P eat rice
接続詞「それから」（文頭）
それから彼はご飯を食べた。

b. *kháw kin khâaw léɛw*
3P eat rice PFCT
完了「～しまう・た」（動詞句の直後）
彼はご飯を食べた・食べてしまっている。

本論文では、動詞句の後に現れる *léɛw* のみが否定の意味と関係を持つので、接続詞的な *léɛw* は取り扱わない。

動詞句のあとに来る *léɛw* の意味に関しては、これまでさまざま分類がなされている。例えば、Thepkanjana (1986) は、*léɛw* について扱った論文ではないが、英語の *already* と同じアスペクトを表す形態素として考えている。しかし、単純に *léɛw* を副詞である *already* と同等に見ることは妥当とはいえない。その他、アスペクト的な観点からは、completion, perfective, perfect とみなす研究がある。以下では、これらの先行研究を踏まえ、*léɛw* の意味を perfect とみなすのが最も妥当であることを考察する。

2.1 completion や change of state を表すという説

Scovel (1970) では、動詞句の後ろに現れる *léɛw* が completion または change of state を表すとしている。例えば、次の例では、「学校へ行く」という動作がある時間軸上の一点において成り立つ accomplishment 的な出来事として捉えられているとしてしている。

(6) *kháw pay rooŋrian léɛw*
3P go school PFCT
"He has gone to school." or "He went to school."
(Scovel, 1970, 106)

さらに、状態を表す動詞と共起した場合は、状態の変化を表す。

(7) *thùuk léɛw*
correct PFCT
"You're right!" or "Now you've got it!" (Scovel, 1970, 107)

この例では、ある状態の発生を強調する機能があるとしている。

確かに多くの場合、*léɛw* は completion を表すが、必ずしも V+*léɛw* が completion を表すとは言えない。実際、Boonyapatipark (1983) が指摘しているように、次の文では completion 以外の解釈も可能である。

(8) *kháw khát rɔɔŋtháaw khûu nán léɛw*
3P polish shoe pair that PFCT
1. 'He has polished that pair of shoes.'
2. 'He has started polishing that pair of shoes.'
3. 'He is about to polish that pair of shoes.'
(Boonyapatipark, 1983, 164)

三つの訳から分かるように、文脈によってこの文は完了相、起動相、将然相の意味に解釈が可能だということになり、*léɛw* が completion を表すとは言えないことになる。

2.2 perfective であるという説

léɛw に対するもう一つの解釈は、*léɛw* が perfective を表すと考えるもので、Boonyapatipark (1983) がこの立場をとる。Boonyapatipark は、*léɛw* を perfective とみなす理由として、*léɛw* が動詞の示すプロセス中の主要な点 (crucial point) を指し、叙述されている状況を外側から眺めているからだとしている（p.158）[2]。*léɛw* が（8）のように完了、起動、将然という意味を表せるのは、reference time において、動詞が表す状況を決定付ける瞬間にすでに到達しており、新しい状況への変化がすでに起っているということを表すからだとしている（p.158）[3]。

確かに、*léɛw* が表すことのできる個別的な意味に

ついての記述は妥当なものと言えるが、perfective を表すという結論は、妥当とは言えない。そもそも、起動相、将然相は、perfective というアスペクトに本質的な意味ではないし、普通、perfective とは別に立てられるべきアスペクトである。

また、明白に perfective event であるとみなせる場合でも、必ずしも *lɛ́ɛw* が付くわけではない。例えば、過去に起ったことを列挙していく場合、典型的な perfective の形式を持つ言語では、それぞれの動作が perfective の形で表される。ところが、このような場合、タイ語では、*lɛ́ɛw* が付くことはない。さらに、perfective event で *lɛ́ɛw* が付く場合と perfective event でも付かない場合とでは、perfective かそうでないかということとは違った意味の差が生じる。例えば、*khǐan còtmǎay* (write letter) は、「手紙を書いた」という perfective event を表すことができる。この文に *lɛ́ɛw* を付加すれば、perfective という点での違いは見られないが、動作の完了を強調する意味になる。

さらに、Boonyapatipark 自身が、*lɛ́ɛw* は、当該の状況をそれに前後する別の状況と関連付ける働きがある（p.158）と触れているが、このように二つの状況を結びつける働きをするのは、そもそも perfective の働きとはいえず、次に述べる perfect というアスペクトの機能である[4]。

2.3 perfect であるとする説

lɛ́ɛw のもう一つの分類は、lɛ́ɛw が Perfect を表すとする見方である (Sareechareonsatit, 1984; Howard, 2000)。perfect とは、Comrie (1976) によれば、時間軸上の２つの点を関連づける、つまり、発話時の状況と言及された当該事態が何らかの関連性があるということを表す範疇である[5]。perfect を担う形式が表す用法の典型的なものは、完了、結果、継続、経験というものである。完了や結果は、過去に起った状況の変化が現在に関係するということを表し、継続や経験は過去に起った効果が reference time まで継続し、現在もその状態にあるということを表す。

Howard (2000) では、*lɛ́ɛw* が perfective ではなく perfect であるということを、アスペクト的に異なる動詞と共起した場合の傾向を見ることで統計的な観点から分析している。perfective であれば、一般的に telic な動詞と共起しやすいという予測が立つが、Howard のデータでは、telic 動詞または non-telic 動詞との共起の割合はほぼ同数であった（state と activity などの non-telic 動詞との共起は 59%、accomplishment と achievement 動詞との共起は 41%で、non-telic 動詞との共起率の方が若干高いという結果（p.384））。また、ディスコースの観点からは、perfective は、foreground の記述に使われる頻度が高いのに対して、perfect は background の記述に頻繁に用いられるという一般的傾向がある。この点に関しても、*lɛ́ɛw* が使用されているほとんどの文が background の状況を提示する文であったという結果が出ている。このことから、Howard は、*lɛ́ɛw* が perfective ではなく、perfect を表すと結論づけている。

Howard は、*lɛ́ɛw* が perfect を表す範疇であるということを提示した上で、*lɛ́ɛw* の用法を次のように７つに分類している（pp.388–399）[6]。

(9) a. *man yùt lɛ́ɛw* (Perfect of result)
3P stop PFCT
'It has stopped!'

b. *phɔɔ tem pɔ́kkèt kháw lɛ́ɛw kháw kɔ̂ɔ tày*
when fill pocket 3P PFCT 3P so climb
loŋ maa (Completive)
DIRdown DIRcome
'When (he) has filled up his pockets, he climbs down.'

c. *lɛ́ɛw phɔɔ kèp maa lɛ́ɛw kɔ́ sày*
conj when pick DIRcome PFCT so put
loŋ pay (Anterior)
DIRdown DIRgo
'And when (he) has picked (some), he puts them in the basket.'

d. *slúplɛ́ɛw thamŋaan ma kì pii*
altogether work CONT how-many years
lɛ́ɛw há (Anterior continuing)
PFCT HON
'Altogether, how many years have (you) worked (here)?'

e. *phɔ́wâ kháw too lɛ́w* (State-exists)
because 3P mature PFCT
'because she is already mature.'

f. *kɛɛ ca tôŋ pay lian loŋrian wichaa ʔik*
3P FUT must go study school course more
yəyɛ thî sûŋ phûan phûan kháw mây
many that which friend friend 3P NEG
tôŋ lian kan lɛ́ɛw (Negative attained
must study together PFCT
state)
'She will have to go take many more courses which her friends don't have to take anymore'

g. *ni ca klàp lɛ́w mɯankan* (Present im-
PRT FUT return PFCT too
minence)
'(She) was about to return (home)'

(9a) は、「すでに（地震）が止まっていた。」という結果の継続を表す。(9b) は、動作が完了したことをあらわすのだが、telic 動詞の場合にしかこの意味は得られないとしている。(9c) は Anterior で、相対的にある動作よりも前に起こったことをマークする。(9d) は Anterior continuing で、過去の時点から現在までの継続を表し stative 以外の動詞と共起する。(9e) はある状態が reference time より前に既に成立していることを示し、その状態が現在時の状況と何らかの関係があるという意味を示す。(9f) は以前に成立していた状態がもはや成立していないことを表す。英語では、*not any more* の意味に対応する。(9g) は将然相を表す。

これらの意味を見てみると、perfect が典型的に表す anterior, anterior continuing, experiential perfect, perfect of result という用法のうちの 3 つが *lɛ́ɛw* の表す用法と重なっていることが分かる。また、Howard は、perfect が表す典型的な用法とは異なるその他の用法ついても、'currently relevant situation' を示すものとして、perfect の用法が拡張されたものだと見ている。

以上見たように、*lɛ́ɛw* の用法には、completive, perfective, perfect という 3 つの候補が挙げられている。これらの議論を総括して考えると、*lɛ́ɛw* の持つ意味を perfect だと考える方が妥当だと思われる。特に、Howard (2000) で計量的に示されている *lɛ́ɛw* のディスコース的な特徴は、*lɛ́ɛw* が perfect として機能しているという強力な証拠となる。また、第 4 節で考察される *mây～lɛ́ɛw* の 制限事項も、*lɛ́ɛw* が perfect であると考えれば当然認められる制限だと言える。

3 lɛ́ɛw を含む否定文の表す意味

mây～ lɛ́ɛw という言語表現に関しては、前節で見た先行研究では、Scovel (1970) と Howard (2000) に簡単な記述がある。Scovel (1970) では、*mây* と *lɛ́ɛw* の組合わさった場合の意味について簡単に触れている。Scovel は、*lɛ́ɛw* のついた肯定文の否定が単に *mây* をつけた文には対応せず、(10b) の文が対応するということを述べているのみで、詳しい考察はない。また、Howard (2000) は、negative attained state という名づけをし、*lɛ́ɛw* の表す意味全体の中で簡単に触れているに止まっており、negative attained state の表す意味の詳細に関しては、十分な考察をしていないし、例文も状態動詞に限られている。また、これら 2 論文以外で、筆者の知る限り、*mây ～lɛ́ɛw* という言語表現についての議論はなされていないようである。本論では、以下に *mây～lɛ́ɛw* の表す意味を「否定的状況への変化」という観点から考察を進める。そして、タイ語のもう一つの否定辞である *mâydây* に *lɛ́ɛw* が付いた場合との違いを比較する。

前節の考察において *lɛ́ɛw* が perfect の意味の一つとして動作の完了を表すということを見た。ところが、タイ語の場合、*lɛ́ɛw* がついた肯定文に否定辞 *mây* を添えても、英語の *have not* という表現のようには未完了の意味を表さない。

(10) a. *kháw pay lɛ́ɛw*
3P go PFCT
彼は（もう）行った。

b. *kháw mây dây pay*
3P NEG get go
彼は（まだ）行っていない。

c. *kháw mây pay lɛ́ɛw*
3P NEG go PFCT
彼はもう行かない（ことにした）・行かなくなった。

(10a) に対応する否定文は (10b) であり、(10c) ではない。つまり、未完了や過去の出来事の単純な否定は、*mây* ~ *lɛ́ɛw* という形式ではなく、*mâydây* という別の表現で表される。*dây* という言葉自体は、否定の *mây* をともなって過去の出来事が成立しなかったことを表すが、出来事の実現を強調するときには肯定文においても単独で現れることが出来る。

(11) *yindii thîi dây rúucàk khráp*
pleased that get know HON
お会いできてうれしいです。

また、*mâydây* は、一般的には過去においてある状況が成立しなかったことを表す。[7]。

mâydây がある状況の不成立をあらわすのに対して、*mây*~ *lɛ́ɛw* という否定は、先に見たように、発話の時点において以前とは異なった状況に変化しているいうことを表す。つまり、肯定的な状況から否定的な状況への変化を表すと言える。このように前提とされる状況とは反対の状況になることを「否定的状況への変化」と呼ぶことにする。(10c) は、「否定的状況への変化」を表す場合のひとつで、これまで「行く」という予定のある状況が「行かない」という予定を取り消した状況へ変化していること、または、行く習慣がなくなったということを表す。

タイ語では、この「否定的状況への変化」には、次の 3 つの細かい区別を立てることができる[8]。

(12) 1. 否定的状態の成立
2. 動作・習慣の停止
3. 予定の取り消し

これら 3 つの意味は、状態動詞なのか動作動詞なのかという動詞のタイプによって異なると言える。状態を表す動詞は、「否定的状態の成立」を表し、動作動詞の場合は、「習慣の停止」や「予定の取り消し」の意味を表す。以下、これら 3 つの用法を具体的に考察する。

3.1 否定的状態の成立

「否定的状態の成立」とは、以前成立していた状態が解消され、その状態が成立していない状況に変化したことを表す。この意味になるのは、状態動詞の場合である。

まず、存在を表す動詞の例から考察してみよう。存在や所有を表す動詞 *mii* と所在を表す *yùu* の例である。

(13) a. *nay krápăw mây mii ŋən lɛ́ɛw*
inside wallet NEG exist money PFCT
財布の中のお金がもうなくなった・なくなってしまっている。

b. *nay krápăw mây mii ŋən*
inside wallet NEG exist money
財布の中にお金がない・なかった。

(14) a. *măa nóon mây yùu thîi nǎy lɛ́ɛw*
dog that NEG stay place where PFCT
あの犬はどこにもいなくなった・いなくなっている。

b. *măa nóon mây yùu thîi nǎy*
dog that NEG stay place where
あの犬はどこにもいなかった・いない。

どの場合も、*lɛ́ɛw* がついている文では、状態の変化が生じる前は、「お金が財布の中にあった」「犬がどこかにいた。」という前提がある。それに対して、*lɛ́ɛw* のついていない文は、そのような含意がなく、はじめからなかったりいなかったりする可能性がある。

コピュラ動詞の場合も、これまでそうであった状態が解消された状態に変化したことを表す。

(15) *kháw mây pen naayók lɛ́ɛw*
3P NEG be Prime Minister PFCT
彼はもう首相ではない・なくなった。

この場合も同様に、以前、首相であったと言うことが前提とされる。

否定的状態を表す場合、過去に成立した出来事に限らず、未来に成立する状況でも叙述することができる。ただし、その場合は、*caʔ* という形式が動詞の前に付く。例えば、次の例では、現在太郎がいるということが前提となり、明日という時点を境に太郎がいない状態が成立することを表す。

(16) a. *phrûŋníi thaaroo caʔ mây yùu lɛ́ɛw*
tomorrow Taro FUT NEG stay PFCT
明日太郎はいなくなる。

b. *phrûɯníi thaaroo caʔ mây yùu*
tomorrow Taro FUT NEG stay
明日太郎はいない。

(16b) のように *léɛw* がなければ、単に未来の否定的状態を表すのみであるが、*léɛw* がつくことで、否定的状態の成立をあらわす。

また、認知動詞 rúu「知る」では、以前は知っている状態だったのが知らない状態になるということを表す。

(17) a. *thîiyùu kháw tɔɔnníi mây rúu léɛw*
address 3P now NEG know PFCT
彼の住所は、いまはもう分からなくなった。

b. *thîiyùu kháw tɔɔnníi mây rúu*
address 3P now NEG know
彼の住所は、いまは知らない。

「壊れる」という動詞 *sǐa* に *léɛw* をつければ、壊れた結果、壊れたままの状態にあるということを表す。この文に否定辞をつけると、逆に、壊れた状態から脱却したという意味を表す。

(18) a. *naalikaa sǐa léɛw*
clock break PFCT
時計が壊れた・壊れてしまった・壊れている。

b. *naalikaa mây sǐa léɛw*
clock NEG break PFCT
時計はもう壊れていない。

3.2 動作・習慣の停止

「動作・習慣の停止」とは、reference time よりも前に進行していた動作がすでに停止している状態やこれまで習慣的に行われてきた動作がすでに行われなくなっていることを表す。

(19) a. *kháw mây kin khâaw léɛw*
3P NEG eat rice PFCT
彼は、ご飯を食べなくなった。

b. *lûukchaay mây pay rooɯrian léɛw*
son NEG go school PFCT
息子が、学校に行かなくなった・もう行っていない。

c. *thaan kɔ̂ɔn níi mây mây léɛw*
charcoal CL this NEG burn PFCT
この炭は、もう燃えなくなった。

(19a) は、食べていた行為が今は行われていないという意味か、病気などでご飯を食べる行為が停止したという意味を表す。(19b) も同様で、習慣の停止を表す。日本語では、「～なくなった」と「もう～ていない」という意味の両方に対応する。(19c) は、直前まで継続していた「燃える」という動作が停止したという「動作の停止」を表す。

ここで注意したいのは、「動作の停止」を表すのは activity verbs のうち、有生物以外の主体による動作（いわゆる process）の場合である。例えば、人間を主体とする動作（activity 自体）は、*mây～léɛw* で「習慣の停止」を表すことはできても、「動作の停止は」表すことができない。activity の停止は、普通 *mâydây～léɛw* で表される[9]。ただし、現在分かっている範囲では、インフォーマントの直感として *dây* の付かない *mây～léɛw* でもかまわないという反応を得た。しかし、それと同時に、「動作の停止」を表す場合は、単純に *mây* による否定ではなく、*mâydây* による否定のほうが自然であるという反応であった。特に、動作が進行していたことを先立って述べている場合、*mây* ではなく、*mâydây* の方が良く、単純に *mây* だけであると、食べる習慣が停止したという「習慣の停止」になる。

(20) *mûɯakîiníi kháw kin khâaw yùu tèɛ tɔɔnníi*
a.while.ago 3P eat rice CONT but now
mâyʔ (dây) kin khâaw léɛw
NEG eat rice PFCT
彼はもうご飯を食べていない。

逆に、process の場合、*mâydây～léɛw* を用いて、動作の停止を表すことはできないようである[10]。よって、(19d) は、*mâydây～léɛw* を用いると不自然である。

3.2.1 二つの否定表現と完了辞

タイ語の否定を表す表現は、mây と mâydây の二つがある。*mâydây* による否定は、普通、過去の状況の否定を表す。逆に *mây* は、動作であれば未来の動作の否定を表す。

(21) a. *wanníi mâydây dɯɯm kaafɛɛ*
today NEG drink coffee
今日はコーヒーを飲まなかった。

b. *wanníi mây dɯɯm kaafɛɛ*
today NEG drink coffee
今日はコーヒーを飲まない。

「動作の停止」を表す場合以外にも、*mây* と *mâydây* の二つの否定表現が *léɛw* と結びついた場合、異なる意味を表す。例えば、(21) の文に *léɛw* を付加すると、それぞれ「今日はコーヒーを飲む機会がこれまでのところなかった」、「今日はコーヒーを飲まないことにした」という意味がもっとも自然な解釈として現れる。

さらに、次の例を見てみよう。

(22) a. *mây kin prík naan léɛw*
NEG eat chili long PFCT
唐辛子を食べなくなって久しい。

b. *mâydây kin prík naan léɛw*
NEG eat chili long PFCT
長いこと唐辛子を食べていない。

ここでも、両者の違いがはっきりと現れる。(22a) では、唐辛子を食べる習慣がなくなってから長い間たっているという状況で、*mây*～*léɛw* が表しているのは「習慣の停止」である。それに対して、(22b) では、これまでのところ、唐辛子を食べる機会がずっとなかった、ということを表す。

このような違いが生じるのは、基本的に *mây* が時間的に現在・未来指向の否定であり、*mâydây* が過去指向の否定であるからだと言える。この違いがはっきり出るのは、ある過去に reference time があり、それより前の event と関連させる past anterior continuing の場合で、この場合、*mây* は容認されず、*mâydây* でなければならない。

(23) a. *mây(dây) cɔɔ kháw naan léɛw*
NEG meet 3P long PFCT
長い間彼に会っていない。(reference time = 発話時点)

b. *mây(dây) cɔɔ kháw naan léɛw tɛ̀ɛ*
NEG meet 3P long PFCT but
mûawaanníi pay cɔɔ kháw maa
yesterday go meet 3P come
長い間彼に会っていなかったが、昨日会って来た。(reference time = 昨日)

3.3 予定の取り消し

これまで予定していたことを考え直して、そうしないことにした、という意味を表す場合、*mây*～ *léɛw* を用いることができる。

(24) a. *mây pay léɛw*
NEG go PFCT
行かないことにした。

b. *mûɯakîiníi khít wâa ca? kin khâaw,*
a.little.while.ago think COMP FUT eat rice
tɛ̀ɛ tɔɔnníi mây kin khâaw léɛw
but now NEG eat rice PFCT
さっきは、ご飯を食べようと思ったけど、今は、食べないことにした。

(24) の例では、単純に「行かない」「食べない」という未来の出来事の否定を表すのではなく、*léɛw* が付くことで、否定的状況へ変化が生じたということを表す。ここでの否定的状況への変化は、実際の事態の変化ではなく予定の変化で、前もって決めていた予定を取り消したという意味になる[11]。

ちなみに、日本語では、意志的な予定を表す場合、「～ことにする」という表現を用い、非意志的な予定の場合は、「～ことになる」という表現を用いる。タイ語では、意志的か非意志的かという区別はないので、*mây*～*léɛw* で表すことができる。次の例では、タイにディズニーランドが来る予定が取り消されてしまった、ということを表す。

(25) *Disneyland mây maa mɯaŋthay léɛw*
NEG come Thailand PFCT
ディズニーランドは来ないことになった。

「予定の取り消し」は、ある行為を行う予定であったという状況が前提としてあり、その予定が取り消されたということを表すが、この意味は、*léɛw* の perfect としての機能から生まれる意味である。ただし、こ

れまでの「否定的状態の成立」や「習慣の停止」と異なり、否定される状況は実際に発話時点以前に成立している状況ではなく、未来に成立する状況である。つまり、reference time が発話時で、event time が未来の場合であり、これまで見てきた perfect の場合と明らかに状況が逆である。event time が未来の場合、*mây～léɛw* という表現があらわす意味を算出するには、これまで見てきた perfect とはやや異なる計算が必要になる。というのも、未来の動作は、発話時点ではまだ成立しておらず、未来の動作を否定するということは、reference point である発話時点の状況と未来の event time における状況になんら変化が見られないからである。つまり、両方の時間において、「行かない」という状態が連続して存在するのみで、何ら current relevance を持ち得ない[12]。reference time を発話時に設定し、時間軸上の別の位置にある event time とを結びつけて reference time に何らかの current relevance の解釈を与えるということは、両者の状況を比較し何らかの変化を認めることであるから、二つの時間上で同じ状態が続いているのであれば、reference time において未来の出来事との関連性を何ら認めることはできないのである。

ただし、event time が reference time より時間的に後に来る状況であっても、reference time における event time との current relevance を認めることは可能である。肯定文の場合は、(26) で示すように、reference time における状況の変化という読みから current relevance を認めることができる。

(26) *klây ca thŭŋ léɛw*
near FUT arrive PFCT
もうすぐ到着します。

この例では、reference time における状況とは異なった状況が event time において発生することを表し、その変化が未実現であるということから将然という意味が算出される。

では、どのような仕組みで「予定の取り消し」という意味が算出されるのか。この場合、意味の算出方法は、これまで見た perfect の場合と異なり、話し手の心理という別の世界を想定し、reference time と関連付けられるのは、述語によって表されている実際の event time はなく、話し手の心理上で予定として成立している event time であると考える必要がある[13]。話者の心理の世界において、未来の予定として成立している event を否定することで、reference time において異なる状況を提示することになり、current relevance として「予定の取り消し」という意味が算出されると考えられる。

4 mây～ léɛw 表現に対する制約

前節で考察したように、*mây～léɛw* は、否定的な状況への変化を表し、日本語の「～なくなる」や「～なくなった」という表現に対応することを見た。しかし、実際には、日本語と比べるとタイ語の *mây～léɛw* が「否定的状況への変化」を表す場合、用法上の制限があり、日本語では「～なくなる」や「～なくなった」という表現であったとしても、タイ語では *mây～ léɛw* に対応しない場合がある。この制限は本来 *léɛw* が perfect を表す形式であるということに由来し、perfect という意味に沿わない状況では、*mây～léɛw* を使うことができないというものである。perfect が成り立たない文脈としては、一般的な状況を説明する場合、event time のみを指す場合、および、否定的状態の成立に気づいた時点での叙述の場合である。

4.1 一般的な状況の説明

特定の個別的な状況ではなく、ある状況が一般的に起る、という説明を行うような文では、(27) のように *léɛw* を使うことができない。

(27) *thâa phûut yàaŋ nán caʔ mây mii khray yùu*
if say like that FUT NEG exist anyone stay
*(*léɛw)*
PFCT
もしそんなことを言ったら、誰もいなくなる。

(27) で *léɛw* が付けられないのは、*léɛw* の機能が perfect を表すものだと考えると上手く説明がつく。perfect は、時間軸上 reference time 以前に存在する event time、または、reference time 以後に存在する event time を参照し、reference time において動詞の表す状況が current relevance を持つということを表す。よって、(28) のように「いなくなった」という出来事が否定的な状態の成立として reference time の

状況と関連性があるという文脈であれば、*lɛ́ɛw* をつけることが可能になる。

(28) *thə phûut yàaŋ nán kɔ̂lɔ̂ɔi mây mii khray*
2P say like that therefore NEG existanyone
yùu lɛ́ɛw
stay PFCT
お前がそんな風に言うから、誰もいなくなってしまった。

これに対して、(27) のような一般的な状況の説明では、時間的な位置づけが問題とされないため、reference time が存在しない。reference time は、ディスコース中、現在・過去・未来という時間設定のうちいずれかを指し、そこを基準として event の前後関係を問題にするものであるから、一般的な状況は、そもそも時間的な設定ができないため、reference time を設定することができない。reference time を設定することができなければ、perfect が表す 2 点間の結びつけという機能を実現することはできない。

4.2 event time のみを指す場合

また、一般的なことでなくても、event time と reference time とが同じ時点にある場合、*lɛ́ɛw* をつけることができない。これも一般的な状況の説明の場合と同じく、perfect が表す図式に当てはまらないからである。

次の例では、「誰もいなくなる」という event の発生は未来であり、かつ、reference time も未来である。よって、この場合も event time が reference time に先行するか後続するかという状況ではなく、単に未来の event time のみの状況を述べている文脈であるため、*lɛ́ɛw* をつけることができない。

(29) *rîip sì. caʔ mây mii khray yùu (*lɛ́ɛw)*
hurry PART FUT NEG exist anyone stay PFCT
急ぎなさい。誰もいなくなっちゃうよ。

否定の文脈でなくとも、event time と reference time が同じである単純時制を表す場合には *lɛ́ɛw* を使うことができないことは、次の例から明らかである。(30a) は、event time と reference time が過去の例である。

(30) a. *mûa pen nákrian rian phaasǎa yîipùn*
when become student study language Japan
*sìi pii (*lɛ́ɛw)*
four years PFCT
学生のときに、4 年間タイ語を勉強した。

b. *tɔɔnníi rian phaasǎa yîipun sìi pii lɛ́ɛw*
now study language Japan four years PFCT
現在、タイ語を勉強して 4 年になる。

(30a) では、4 年間タイ語を勉強したという出来事は過去であり、また、reference time として働く「学生のとき」は、このタイ語を勉強した時期と重なり、event time と reference time とが同時である。それに対して、(30b) は、タイ語を勉強するという event の発生が過去であり、「現在」で表される reference time とは重ならず、reference time においても動作が継続しているという perfect の意味を持つ。

4.3 否定的状態の成立を認識した時点での叙述

さらに、以前とは異なる否定的な状態の成立に気づいた時点でその状況を叙述する場合に、日本語では、「～なくなった」と言えるが、タイ語では、*lɛ́ɛw* が付くと不自然になる。

(31) a. *fay mây dàp*
light NEG disappear
明かりが消えない・消えなくなった。

b. *pratuu mây pɔ̀ɔt*
door NEG open
扉が開かない・開かなくなった。

この場合も、その出来事に気がついた時点が event time であり、また、reference time も同じ時点になる。よって、perfect の表す状況にはならないので、この意味では *lɛ́ɛw* を付けることはできない。

ただし、(31) がその変化した状況を過去のものとして捉え、現在もその否定的状況が成立しているということを表明するような場合であれば、*lɛ́ɛw* を付けることができる。つまり、perfect の文脈が想定できる場合である。この場合、意味としては「習慣の停止」を表すことになる。

5 結論

本論では、否定辞 *mây* を含む文に *léɛw* がついた場合に、*mây*～*léɛw* という表現が意味する「否定的状況への変化」について考察した。タイ語において *mây*～*léɛw* が表す「否定的状況への変化」は、「否定的状態の成立」、「動作・習慣の停止」、「予定の取り消し」の3つに下位分類できる。考察を進めるに当たり、日本語の「否定的状況への変化」を表す表現である「～なくなる」「～なくなった」という表現と簡単に対比しながら話を進めたが、常にこれら日本語の表現が *mây*～*léɛw* が対応するわけではない。タイ語の場合、*léɛw* が perfect を担う言葉であるため、この perfect という文脈が成り立つ場合にしか、明示的に「否定的状況への変化」を表すことができないということを論じた。

グロス記号一覧

CL — classifier	HON — honorific
COMP — complementizer	NEG — negation
CONJ — conjunction	PFCT — perfect
CONT — continuous	PRT — particle
FUT — future	2P — second person
DIR — directional	3P — third person

注

* 本研究は、平成13年度に美作女子大学学内研究助成金を受けて研究した内容の成果の一部である。今回の原稿を書くに当たっては、2000年から2002年にかけて当時神戸大学大学院生の Maneephong Borwonsri さんから数回聞き取り調査を行った。インフォーマントとして長期にわたり協力いただいたことに、ここで感謝の意を表明したいと思う。また、お忙しい中本論文に目を通し貴重なご意見、ご指摘を賜った査読者の方にお礼申し上げる。著者の力不足もあり、査読者の意見を十分に反映させることができていないかもしれないが、査読者の意を汲んで論文を改めた。また、当然のことであるが、論文中の誤解、誤りはすべて著者の責に帰するものである。

1 例えば、*léɛwsèt*「終わる」や *léɛw léɛw, léɛw pay* 'finish PFCT finish go' 「終わった物は終わったものとしよう。」のような例がある（査読者指摘）。

2 perfective とは、動作を構成する段階を問題にせず、一つの状況としてまとめて捕らえるアスペクトとして考えられている。つまり、動作の始まり、途中、終わりを分割せずに一つのまとまりとして提示するのが、perfective の働きである。その逆に、imperfective は、動作を構成する段階を内側から眺める機能を持つアスペクトで、その点、perfective が外側から動作全体を眺めるアスペクトだと言える (Comrie, 1976; Bybee, Perkins, & Pagliuca, 1984)。

3 本論文で使用している用語 'reference time'、'event time' は、Reichenbach (1947) の 'point of speech', 'point of the event' に同じ。便宜上、短い表現として使用している。

4 Boonyapatipark 自身は、*léɛw* が perfect ではないという立場をとるが、その理由として、必ずしも英語の perfect に訳すことができないからだと述べている。しかし、単に英語の perfect に対応しないからという理由は、perfect ではないということを主張する論拠とはならない。

5 Perfect という用語は、Comrie 以降一般的に受け入れられている用語である。しかし、Bybee et al. (1984) では、perfect という名称の代わりに、ほぼ同じ機能を指して 'anterior' という用語を用いている。基本的に、両者の指すものは同じである。そもそも、Comrie が普遍的な文法範疇として名づけている perfect と各言語の文法の中で 'Perfect' と呼ばれているものとの間に、往々にしてずれが生じる場合があることから、用語の混乱を避ける意味で、anterior という用語を採用する方が望ましいように思われる。しかし、本稿では、一般的に広く認知されている perfect（パーフェクト）という用語を用いることにする。

6 以下の Howard (2000) の引用例文では、Howard の採用しているタイ語のつづりをそのまま掲載する。また、Howard は、アスペクトとは関係ないが、*léɛw* のもう一つの用法として以下のような強調用法も示している。

(i) *nùŋ nía kɔ̂ yêɛ lɛ́w* (Emphatic)
one PRT so be.bad PFCT
'One, (that)'s bad!'

7 ただし、必ずしも過去には限定されず、未来において、事態が成立しないことを強調する場合にも用いるようである。

8 タイ語以外の言語で「否定的状況への変化」がどのような下位用法を持ち、言語ごとにどのように表現形式が異なるのかに関する議論は、桐生 (印刷中) を参照。

9 日本語でも「～なくなる」という表現は、activity の場合、習慣の停止しか表せないが、process の場合は動作の停止を表せるという点で類似している。

10 Krisadawan Hongladarom (私信)

11 もちろん、文脈によってはこれらは「習慣の停止」とも解釈が可能である。

12 英語の未来完了形は event time も reference time も未来であり、かつ、reference time が event time よりも時間的に後に位置するので、他の perfect と同じ current relevance を算出できる。例えば、*He will have arrived by then.* と言えば、ある未来における彼の到着という事態が、then で指される reference time においてすでに完了しているという意味を表すことで reference time における current relevance を表す。そして、その否定は、そのような状況の変化を否定するものである。もちろん、タイ語の場合も、reference time と event time を未来に置いて、英語の未来完了形と同じことを *lɛ́ɛw* を含む肯定文では表せるが、否定文の場合は、*lɛ́ɛw* を使わない。これは、現在の場合と同じである。

13 この場合、現実世界とはまったく別の話者の心理的な世界を構築し、その二つの世界を結びつけ計算を行うモデルを考える必要があるが、そこまでの定式化は、本稿の目的ではないので行わない。ただし、有効なモデルとしては、メンタルスペース理論に依拠したモデルが考えられる。このようなモデル化は、将来の課題としたい。

参考文献

Boonyapatipark, T. (1983). *A Study of Aspect in Thai.* Unpublished doctoral dissertation, The University of London.

Bybee, J., Perkins, R., & Pagliuca, W. (1984). *The Evolution of Grammar: Tense, Aspect, and Modality in the Languages of the World.* Chicago University Press, Chicago.

Comrie, B. (1976). *Aspect.* Cambridge University Press, Cambridge.

Howard, K. (2000). The notion of current relevance in the Thai perfect. *Linguistics*, *38*, 373–407.

Reichenbach, H. (1947). *Elements of Symbolic Logic.* The Free Press, New York.

Sareechareonsatit, T. (1984). *Conjunct verbs and verbs0in-series in Thai.* Unpublished doctoral dissertation, The University of Illinois.

Scovel, T. S. (1970). *A Grammar of Time in Thai.* Unpublished doctoral dissertation, The University of Michigan.

Thepkanjana, K. (1986). *Serial Verb Construction in Thai.* Unpublished doctoral dissertation, University of Michigan, Ann Arbor.

桐生 和幸 (印刷中). 「否定的状況への変化を表す表現の対照研究： ネワール語、日本語、英語、タイ語、中国語を比較して」『柴谷方良先生還暦記念論集（仮題）』くろしお出版.